

005 Cacco

作品名	作家名	感想	評価
<p>昨晚 お会いしましょう</p>	<p>田口ランディ 幻冬舎</p>	<p>短編集。作者あとがきによると「憎しみや怒りは心を壊すけれど、愛や悲しみは心を壊さない。抱きしめて生きていける。そんなことを考えながら書いた」そうだ。そのわりにはエッチなシーンが多すぎるみたいな気がするけど、それとこれは関係ない？五編目の売れない作家が沖縄でユタと出会い、忘れていた処女作を書いたきっかけを思い出す「ウタキ夜話」がよかった。</p>	☆☆☆
<p>GO</p>	<p>金城一紀 講談社</p>	<p>映画はとっくに観ていたので、主役ふたりは完全に柴咲コウと窪塚くんになってました。ちょっと主役の男の子がかっこよすぎる。勉強はできないけど知識欲は旺盛で国籍に関する疑問もきちんと持ちクールで熱くて滅法喧嘩が強い。女の子も超かわいくてしかも個性派。自分の考えで行動できる。もっとどうも思い通りにいかないって話のほうが感情移入しやすいなあ。</p>	☆☆☆
<p>イノセント</p>	<p>中村うさぎ 新潮社</p>	<p>この作者って美容整形美人で有名な人。本の内容はまあまあともて読みやすいけど妙に主人公を美化してて少女漫画ふうかもしれない。桜井亜美ふうといってもいいかも。焼身自殺をはかった娘の死の真実をさぐるため父親が関係者を訪ね歩く姿を、関係者それぞれのモノローグで表す構成。</p>	☆☆★
<p>物語が、始まる</p>	<p>川上弘美 中央公論社</p>	<p>表題作「物語が、始まる」は公園で拾った男の子の雛型に恋する女性の話。雛型の成長は早く結局恋は成就したのかしないのかわからない。人生を（雛形生を）まっとうしたという意味では恋は成就したのかもしれない。看取った雛形を公園に捨て、女性の抱く想いがいい。他に「トカゲ」「婆」「墓を探す」のみつつの短編が収録。全てこの世とあの世の境界線の話。面白い。</p>	☆☆☆☆

<p>奇跡の人</p>	<p>真保裕一 新潮文庫</p>	<p>8年前の事故がきっかけで大怪我を負い記憶を失い、脳死判定をされかかりながら再生し「奇跡の人」と呼ばれた男が自分のなくした過去を探しに旅立つ。過去を探す過程での昔の女への執着、人間関係の齟齬から短絡的に生まれる暴力、読んでいて後半は気持ちが悪くなった。ラストのエピソードも納得いかない。わたしだったらこんな男のメンドーなんて絶対みない。奇跡の人なんてとんでもない。ただの偏執狂にみえる。つまらないわりに長すぎる。</p>	<p>☆☆</p>
<p>わたしたちができるまで</p>	<p>大島弓子 岩館真理子 小椋冬美 角川文庫</p>	<p>三人の漫画家への50の質問と自身による作品解説。あんまり作品の解説本は好きじゃない。小説を読んでもだいたいあとがきは読まないほう。しっかりしてないから解説読むと影響されちゃって意見がなくなっちゃうから。大島弓子さん岩館真理子さんの漫画は若いときにはごっつー感動しました。通過点のような漫画だと思う。そこいくとたとえばつげ義春さんとか榎岡かずおさん萩尾望都さんなんかは30年位経って読んでも面白い。時を超越してるんだな、すごい。</p>	<p>☆☆☆</p>



横浜は西谷で見かけた色付き始めた蔦。

<哀愁>

う～ん、やっぱりネーミングは下手だな。

by うさお